

## &lt; 介護・医療連携推進会議における評価 &gt; ※公表用

## 【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	事業所名	こぶし 24 時間ケアサービスステーション美沢
所在地	(〒 940 - 0856 ) 新潟県長岡市美沢 4 丁目 2 1 1 番地 6		

## 【事業所の特徴、特に力を入れている点】

24 時間 365 日営業。住み慣れた地域の中で築き上げた暮らしを支えていく。  
情報共有にはタブレットを使用し、多職種連携にも活用している。

## 【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2023 年 8 月 30 日	従業者等自己評価 実施人数	( 9 ) 人	※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	---------	---------

## 【運営推進会議における評価の実施概要】

実施予定日	西暦 2024 年 1 月 19 日	メンバー人数 (合計)	( 17 ) 人	※自事業所職員を含む
照会人数 (内訳)	■自事業所職員 (2人)    ■市町村職員 (1人)    ■地域包括支援センター職員 (1人)    ■地域住民の代表者 (1人) ■利用者 (1人)    ■利用者の家族 (1人)    ■知見を有する者 (2人)    ■医療従事者 (6人)    ■その他 (2人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推進会議や個別評価についての周知、学習を行い更に個人の資質を上げていく。</li> <li>・アセスメントやモニタリングを指導することで専門技術の向上を目指す。</li> <li>・感染症のBCPに沿ったシミュレーションを行う。</li> <li>・各利用者の災害時の避難行動について検討していく。</li> </ul>	<p>推進会議について内容を職員と共有し事業所の取り組みや実践状況を理解してもらっている。</p> <p>申し送り内容の入力方法に F-SOAP を取り入れる。サービス提供責任者が実践し皆で共有している。またマニュアルを配布し自己学習に取り組んでいる。</p> <p>各利用者の災害避難について、個別避難計画についてアンケート調査を行った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推進会議を通して評価しサービスの向上に取り組んでいる。</li> <li>・研修で得たことを、他者に伝える事で更に理解は増す。伝達研修も大事な研修の機会であるため有効利用したい。</li> <li>・推進会議で課題と感じたことをそのままにせず知己機関と連携し課題解決に向けて取り組もうとしている。それぞれの立場から、災害避難について「できること」や役割などを話し合うことが出来た。今後もこうした取り組みを続けていきたい。</li> </ul>	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フェニックスネットやサービス間で利用者の情報共有を行い、お互いの専門性を生かした支援をすすめる。</li> </ul>	<p>フェニックスネットでの情報共有を行い、利用者の支援に活かされている。</p>	<p>フェニックスネットを活用し、介護・看護間で随時情報共有が図られていると思う。両面からのアセスメントも適切に行われている。</p>
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インフォーマルサービス資源について掘り起こしを行い、積極的な利用促進をすすめる。</li> </ul>	<p>配食サービス以外のインフォーマルサービスを掘り起こしたいが未だ行えていない。</p>	<p>インフォーマルサービスの把握に努めて利用が広がると良いと思う。</p>
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 28～32)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報活動について広報誌以外の方法を模索し、定期随時サービスの周知に努めていく。</li> </ul>	<p>定期随時サービスの周知活動を地域の集まりで行う。</p>	<p>広報紙以外の活動をすすめていきたい。施設の説明会や相談会などを考えていく。今後も引き続き情報発信し、他の周知方法に</p>

				ついて検討しより多くの方にサービスを知ってもらう。
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 33～34)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期随時の利用で在宅生活が安心して送れるようなサービスを行い質の水準を維持していく。</li> <li>・ 訪問看護の連携を勧めることで利用者が安心して生活できるような支援を行う。</li> </ul>	定期随時サービスの新規利用者や現利用者にも適宜訪問看護利用を勧めている。		訪問看護との連携を行うことで在宅生活を送る上で医療面での心配事に対しいつでも相談でき支援に繋がることを随時伝えていく。

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します

### ■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 推進会議を通して評価しサービスの向上に取り組んだ。</li> <li>・ 研修で得たことを、他者に伝える事で更に理解を深めることが出来た。伝達研修も大事な研修の機会であるため有効利用したい。</li> <li>・ 推進会議で課題と感じたことをそのままにせず関係機関と連携し課題解決に向けて取り組もうとしている。それぞれの立場から、災害避難について「できること」や役割などを話し合うことが出来た。今後もこうした取り組みを続けていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 推進会議の内容や外部評価の内容を職員に分かりやすく説明する機会を設け、事業所の目標や取り組みを全員が理解できるように伝えていく。</li> <li>・ 職員の資質向上のため参加した研修内容の伝達研修の場を作る。</li> <li>・ 個別避難計画について地域の集まりに参加して意見の聴取を行う機会を作る。</li> </ul>

Ⅱ. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)	フェニックスネットを活用し、介護・看護間で随時情報共有が図られた。 看護・介護と両面からのアセスメントも適切に行われている。	・居宅介護支援事業所に対しインテーク時やサービス依頼の参考になるように定期随時サービス、訪問介護サービスそれぞれの利用方法について、事例を入れた説明会を行う。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)	地域のインフォーマルサービスの把握が出来ていなく利用者に活用できていない。	・包括支援センター、コミュニティーセンターより助言をもらい地域のインフォーマルサービスの種類を確認する。適宜ご利用者に活用できるように検討する。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 28～32)	広報紙以外の活動ができなかった。施設の説明会や相談会などを考えていく必要がある。今後も引き続きこぶし24時間ケアサービスステーション美沢の情報発信し、他の周知方法について検討しより多くの方に定期随時サービスを知ってもらう。	・コミュニティーセンターとの顔の見える関係作りを行う。地域の集まりやサークルの情報を得た中で一緒に活動に参加しながら周知活動を行い、こぶし24時間ケアサービスステーション美沢を知ってもらい必要な時に利用される選ばれる事業所を目指す。
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 33～34)	訪問看護との連携率は上がらなかった。訪問看護との連携を行うことで在宅生活を送る上で医療面での心配事に対しいつでも相談でき支援に繋がることを随時伝えていく必要がある。	・医療的が必要になった時や新規契約時に訪問看護との連携の利点について説明を丁寧に行い、安心して在宅生活を送れるように働きかけていく。	

※自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します